

## 2 2年1組の実践 「九九をつくろう[かけ算(2)]

(1)本時のねらい 第1時 (全17時間)

6の段の九九をつくる活動を通して、乗法の性質が成り立つことが分かる。

### (2)児童の変容

手だて1  
自力解決の場面  
その①

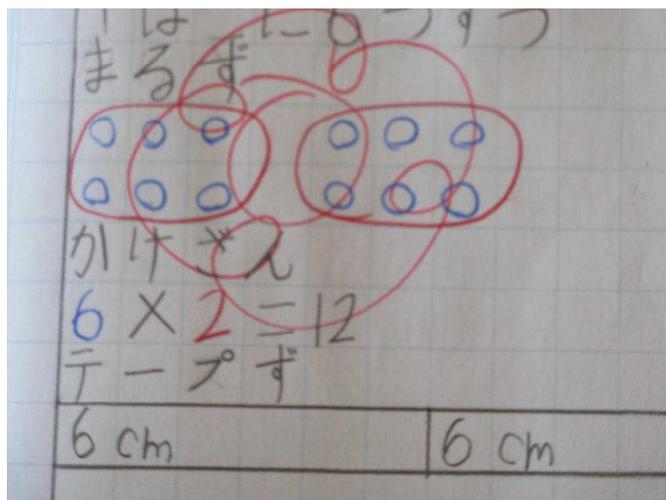
乗法が成り立つことを確認するために、問題文の題意をイメージした図を描き、「1つ分の数(かけられる数)」、「いくつ分の数(かける数)」、「ぜんぶの数(答え)」に気付かせることで、立式できるようにする。

乗法が成り立つことを理解するためには、「1つ分の数(かけられる数)」、「いくつ分の数(かける数)」、「ぜんぶの数(答え)」を正しく認識する必要がある。前単元[かけ算(1)]では、具体物・ブロック・アレイ図・テープ図・自分で考えた図・式・言葉を使って、「1つ分の数」とそれが「いくつ分」あるのかを表現し、5・2・3・4の段の九九を作った。しかし、いずれも「1つ分の数」が文頭にあったので、本時は「1つ分の数」と「いくつ分の数」を文中に反対に記述した文章問題を提示した。そのような場合でも、自分で図を書くことにより、「1つ分の数」と「いくつ分の数」に正しく気付き、立式できるようにした。

#### 具体的な児童の姿

達成目標：問題文の題意に合った6のまとまりの図を書き、「1つ分の数」、「いくつ分の数」、「ぜんぶの数」に気付き、正しく立式できる。

- ①図をかく前から、 $6 \times 2 = 12$ 。「1つ分の数」は6。「いくつ分の数」は2。
  - ②正しい図を書き、 $6 \times 2 = 12$ 。「1つ分の数」は6。「いくつ分の数」は2。
  - ③図をかこうとしてうまく書けずに、悩んでいる。
- ※ほとんどの児童が、 $2 \times 6$ でなく $6 \times 2$ であることに気付いた。



(児童のノートに描かれた図)

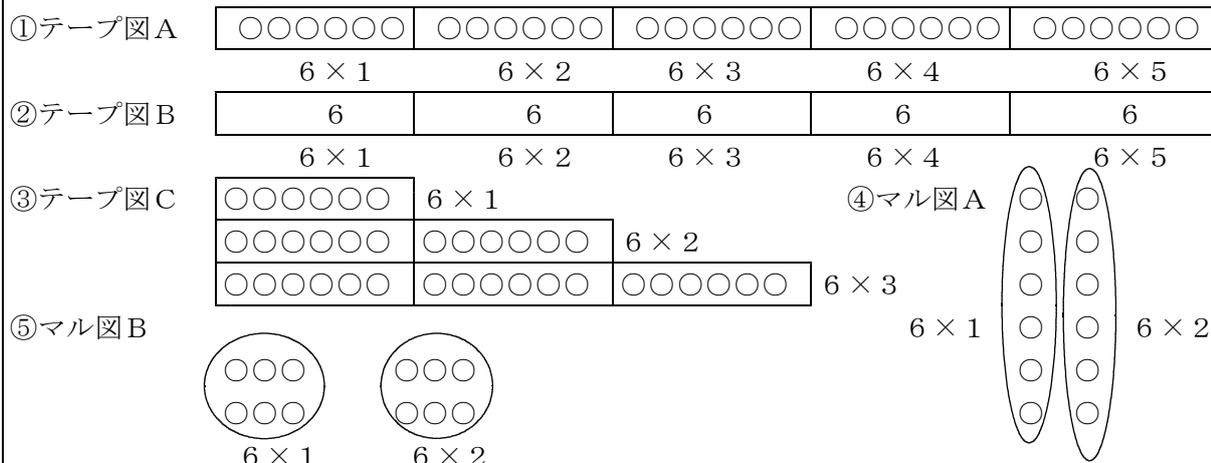
手だて2  
自力解決の場面  
その②

6の段の九九を、児童がいろいろな方法で考えて作る場面において、画用紙に6の段の答えと作り方を図や式で書くことで、6の段の九九の答えが6ずつ増えていることを説明することができるようにする。

6の段の九九を各自いろいろな方法で考えて、画用紙に6の段の答えと作り方を書くように指示した。考えられない児童には、教室に掲示してある累加の式・アレイ図・テープ図を見るように助言した。児童それぞれが、テープ図・マル図など自分の考えた図と式で6の段の作り方を書いた。テープ図で正しく書けた児童が多く見られたが、マル図で九九の構成を間違えて書いている児童が見られた。次に、画用紙に書いた6の段の九九の答えと作り方を発表させ、意見を交換させた。たし算だけで6の段の九九を作った児童は見られず、それは大変であることにほとんどの児童が気付いていた。6の段の九九は6ずつ増えているので、6ずつ増やせば答えが求められることを児童が発表できた。

### 具体的な児童の姿

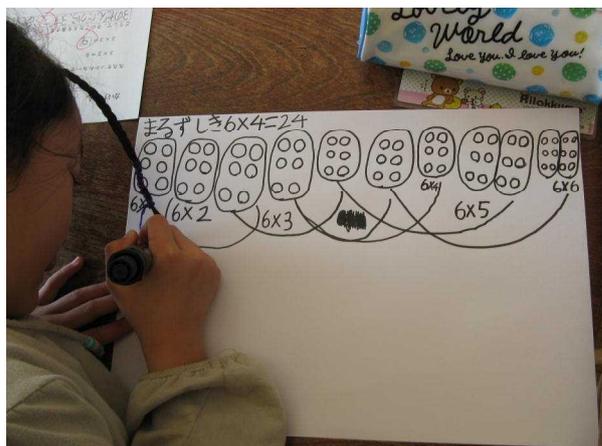
達成目標：6の段の九九を児童がいろいろな方法で考えて、6の段の九九の答えと作り方を図や式で書くことができる。



※テープ図Cが最も分かりやすく教師が期待した図であったが、テープCを描いた児童は少なく、マル図AまたはBが多かった。



(児童のノートに描かれたマル図B)



(児童のノートに描かれたマル図A)

### (3)成果と課題 (○成果 ●課題)

#### <手だて1>

○問題文を提示する時に、6のまとまりの具体物として6個入りのチーズの箱2つを児童に見せたことで、多くの児童が早く題意を理解し、問題文の「1つ分の数」、「いくつ分の数」を正しくとらえることができた。具体物を見せたことで、学習課題に対する話し合いが活発になった。

●6のまとまりの図を書く時に具体物の絵を上手に描けずに悩んでいる児童が見られた。具体物の例示は1つだけでなく複数の具体物にするか、図の描き方を身に付けさせる必要がある。

#### <手だて2>

○テープ図で、自分の考えを分かりやすく書くことができた児童が多かった。

●マル図でマルの数を間違えて書いている児童が見られた。個別に助言する必要がある。

●テープ図を6cmずつ測って書き、テープ図が画用紙に入りきらなくなる児童が多く見られた。テープ図の書き方への理解を十分にさせる必要がある。

●真っ白な画用紙に6の段の九九の図と式を自分で考えて書くのは児童にとって難しかった。6×1を書く所、6×2を書く所等に区切って書かせた方が、答えが6ずつ増えていくことにすぐに気付いたと思われる。